

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

R ジャン・ルノワール、映画のすべて。

*Le Grand Théâtre de Jean Renoir*11月5日(火)~11月30日(土) / 12月10日(火)~12月26日(土)
1月7日(火)~2月1日(土)主催=東京国立近代美術館、国際交流基金、朝日新聞社
後援=フランス外務省、フランス大使館、映画生涯百年祭実行委員会
協力=日本航空

- 料金=共催企画の特別料金(4頁参照)
- 発券は上映の1時間前から1階エントランス・ホールで行ない、定員に達し次第締め切ります(大ホール定員300名)。
- 前売券(5回券、10回券を含む)に日時指定はありません。各回、発券のために当日券と同じ列に並んでいただきます。満員の場合は入場できませんのであらかじめご了承ください。
- 大ホールの開場は上映の30分前で、開映後の入場はできません(各回入替制)。

ジャン・ルノワール、映画のすべて。

特別企画 国際映画シンポジウム(東京・1996年)

「ジャン・ルノワール芸術の魅力と秘密」

*Le Grand Théâtre de Jean Renoir :**International Film Symposium (Tokyo, 1996)*

"IN SEARCH OF THE SECRET OF JEAN RENOIR AND HIS ART"

12月7日(日) 10:30am~5:30pm

- 入場無料 / 日仏同時通訳あり / 途中休憩あり / 先着順・定員300名になり次第締切(開場10:00am)

展示室(7階)

東松照明写真展 インターフェイス

Shomei Tomatsu: Interface

10月1日(火)~11月30日(土)

- 料金=一般200円(170円) 学生120円(90円) 小人90円(50円)
- ()内は20名以上の団体料金
- 本企画の詳細については当該チラシをご覧ください。

写真で見る「ジャン・ルノワール、映画のすべて。」

-UCLAジャン・ルノワール・コレクションより-

*Le Grand Théâtre de Jean Renoir :**A Photo Exhibition from UCLA Arts Library Special Collections Jean Renoir Papers*

12月10日(火)~12月26日(土) / 1月7日(火)~2月1日(土)

- 入場無料

- 上記の期間中、小ホールでの上映はありません。
- 11月~1月の休館日：日曜日・月曜日、12月3日(火)~12月6日(金)、12月27日(金)~1月4日(土)

図書室(4階)

開室=休館日、祝日、年末年始、臨時休室日以外の火曜日~金曜日
(午前10時30分~午後6時 / 入室は5時30分まで)

展示室

開室=休館日以外の火曜日~土曜日
(午前10時30分~午後6時 / 入室は5時30分まで)

発券=7階受付

東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

ジャン・ルノワール、
Le Grand Théâtre de Jean Renoir
映画のすべて。

1996-97
11-1NFCカレンダー
96年11月・12月・97年1月号

大ホール
上映作品

ジャン・ルノワール、
Le Grand Théâtre de Jean Renoir
映画のすべて。

映画史上最も偉大な映画監督の一人ジャン・ルノワールが、その生涯に発表した全37作品の内、現存が確認されていない「マルキッタ」(1927年)を除くすべてのフィルム36本を、関連作品8本(下欄太字)と共に38番組に構成して上映しようという世界でも稀で野心的な長期企画です。「映画生誕」の前年に画家ピエール＝オーギュスト・ルノワールの次男として生を受け、今だ揺籃期にあった映画を20世紀の代表的な芸術にまで高めたジャン・ルノワールの、国境と時代を越えた才能の軌跡をたどることができる千載一遇の機会となるでしょう。

R-1 11/7 水3:00pm 1/28 火3:00pm
1/30 木6:30pm

水の娘 La Fille de l'Eau

記念すべきデビュー作で、さまざまなシーンに後のルノワール映画を予感させるようなひらめきを感じられるだろう。少女を演じるのは、妻カリーヌ・ヘスリング。今回のために新たに焼いた、ニュープリントによる上映。



(70分・35mm・無声・白黒)
24仏 ④ピエール・レストラングス ⑤ジャン・パシュレ, アルフォンス・ジオリ ⑥C・ヘスリング, ビエール・フィリップ

R-2 11/6 水3:00pm 1/29 火3:00pm
1/31 金6:30pm

女優ナナ Nana

シトロハイムの「愚なる妻」を見たルノワールが、リアリズムをめざして作った作品である。ゾラの小説が原作だが、ほとんどドイツで撮影された。ナナの愛人ミュファ伯爵を演じるのは「カリカリ博士」(1919年)で主役のヴェルナー・クラウス。



(145分・35mm・無声・白黒)
26仏 ④P・レストラングス ⑤エドモン・コーウィン, J・パシュレ ⑥C・ヘスリング, ジャン・アンジェロ

R-3 11/7 木6:30pm 1/28 火6:30pm
1/30 木3:00pm

チャールストン Charleston

水河に襲われて崩壊したヨーロッパ。人工衛星に乗った黒人の学者が白い(野蛮人)から、チャールストン・ダンスの手ほどきを受ける。カリーヌ・ヘスリングが腰を振って、情熱的な踊りを見せる。ニュープリントによる上映。



(21分・35mm・無声・白黒)
26仏 ④P・レストラングス ⑤J・パシュレ ⑥C・ヘスリング, ジョニー・ハギンス

マッチ売りの少女

La Petite Marchande d'Allumettes

アンデルセンの童話を、幻想的な手法で描いた作品。雪の降る新年の夜、マッチを売る少女はいじめられ、マッチを擦っているうちに眠り込む。夢の中で馬に乗って空を駆けるシーンが素晴らしい。ニュープリントによる上映。



(29分・35mm・無声サウンド版・白黒)
27仏 ④J・ルノワール ⑤J・パシュレ ⑥C・ヘスリング, ジャン・ストルム

ジャン・ルノワールの演技指導

La Direction d'Acteurs par Jean Renoir

ルノワール特有の演技指導を、ルーマー・ゴッデンのテキストを使って、具体的に見せてくれる貴重な一篇。

(22分・16mm・カラー・関連作品)

68仏 ④ジゼル・ブロンベルジェ ⑤エドモン・リシャル ⑥J・ルノワール, G・ブロンベルジェ

R-4 11/6 水6:30pm 1/29 火6:30pm
1/31 金3:00pm

のらくら兵 Tire-au-Flanc

ルノワールが初めて撮った、男性を主人公にした作品。選ばれたのは、ミシェル・シモン。彼は、突飛な行動を繰り返す兵隊を見事に演じ、ルノワールの最も愉快な作品となった。ルノワールが敬愛したチャップリンの影響も濃厚。



(130分・35mm・無声・白黒)
28仏 ④J・ルノワール, クロード・エイマン, アルベルト・カヴァルカンティ ⑤J・パシュレ ⑥J・ジョルジュ・ボズエ, M・シモン

R-5 11/9 土1:00pm 11/13 水3:00pm

騎馬試合 Le Tournoi

ルノワールが初めて挑んだ歴史劇。16世紀、宗教戦争の時代を舞台に決闘が繰り返される。南仏カルカソンスに壮大なセットを組み立て、数百人のエキストラを使ってコスチューム・ブレイが繰り返される異色作。



(120分・35mm・無声・白黒)
28仏 ④A・デュビュイ=マズエル, A・ジャジュール・シュミット ⑤アルド・ナディ, ジャッキー・モニエ

R-6 11/8 金3:00pm 11/12 火6:30pm

荒地 Le Bled

旧仏領アルジェリアを舞台に、植民地主義の国策映画として作られた幻の作品。青年が愛する女を救うために馬で追いつけるラスト・シーンは、西部劇そのものである。シネマテーク・フランセーズ門外不出のプリントを今回に限り上映。



(85分・35mm・無声・白黒)
29仏 ④A・D・マズエル, A・J・シュミット ⑤M・リュシアン, レオン・モリゼ ⑥J・モニエ, ディアナ・ハート

R-7 1/18 土1:00pm 1/22 火6:30pm
1/24 金3:00pm

坊やに下割を On Purge Bébé

ルノワールのトーキー第一作で、やんちゃな子供を中心に繰り返される家庭ドラマだが、水洗トイレの音など、音の実験が随所に見られる。ミシェル・シモンとフェルナンデルの演技も見ものである。



(62分・35mm・白黒)
31仏 ④J・ルノワール ⑤テオドル・スバルクル, ロジェ・ユベール ⑥ジャック・ルヴィニエ, マルクリット・ビエリー

R-8 12/11 水6:30pm 1/10 金3:00pm
2/1 土1:00pm

牝犬 La Chienne

この作品から、ルノワールの第1期黄金時代が始まる。ジゴロ役のジョルジュ・フランマンと、その情婦ジャンニー・マレーズに日曜画家のミシェル・シモンがからむ愛憎劇。あまりのリアルさに俳優たちが映画と同じ恋愛関係になったという。



(100分・35mm・白黒)
31仏 ④J・ルノワール ⑤T・スバルクル ⑥M・シモン, J・マレーズ, J・フランマン

R-9 11/21 木3:00pm 11/23 土4:00pm

十字路の夜 La Nuit du Carrefour

シムノンの小説を原作にした、謎のダイヤモンド殺人事件を追うメグレ警部の物語。複雑なプロットのうえに同時録音でセリフも聞き取りにいが、ゴッダーはこの映画をフランスで唯一のフィルム・ノワールだと述べている。



(74分・35mm・白黒)
32仏 ④J・ルノワール ⑤M・リュシアン, ジョルジュ・アスラン ⑥ピエール・ルノワール, ジョルジュ・テロフ

R-10 1/7 火3:00pm 1/10 金6:30pm
1/15 水・祝1:00pm

素晴しき放浪者

Boudu Sauvé des Eaux

ルノワールのおおらかで自由な思想を体現する名優、ミシェル・シモンが繰り返される楽しい物語。セーズ河に身投げした浮浪者ブーデューは、助けられたうえ、小間使いの娘と結婚させられるが…。原題は「水から救われたブーデュー」。



(83分・35mm・白黒)
32仏 ④J・ルノワール ⑤M・リュシアン ⑥M・シモン, シャルル・グランヴァル

R-11 1/18 土4:00pm 1/22 火3:00pm
1/24 金6:30pm

シヨータル商会 Chotard et Cie

食料品店を経営するシヨータル父子をめぐる愛すべき喜劇であり、その父親をマルセル・パニョル映画の名優フェルナン・シャルパンが演じている。店の中を縦横無尽にめぐるカメラワークも見事。フランスでもほとんど上映されない幻の作品。



(83分・35mm・白黒)
32仏 ④J・ルノワール ⑤ジョゼフ・レイムンドワイラー ⑥F・シャルパン, ジャンヌ・ロリー

R-12 11/19 火6:30pm 11/22 金3:00pm

ボヴァリー夫人 Madame Bovary

フロバールによる原作の忠実な映画化作品。主人公のエマを演じるのは、当時40歳の舞台女優ヴァンティエヌ・テシエ。グリウス・ミヨールのオリジナル音楽も興味深い。今は失われた当初の3時間版はさらにすばらしいという。



(105分・35mm・白黒)
33仏 ④J・ルノワール ⑤J・パシュレ ⑥P・ルノワール, アリス・ティツ

R-13 12/19 木6:30pm 12/21 土1:00pm
12/25 火6:30pm

トニ Toni

南仏の労働者の暗澹たる物語を、多くの素人を起用し、セットを使わずに実景で撮影したこの作品は、イタリアのネオ・リアリズムの先駆と言われている。マルセル・パニョルが製作を助けたほか、27歳のルキノ・ヴィスコンティが見習いとして参加。



(96分・35mm・白黒)
34仏 ④J・ルノワール, カルル・アンスタン ⑤クロード・ルノワール ⑥シャルル・ブラヴェット, ジェニー・エリア

R-14 11/19 火3:00pm 11/21 木6:30pm

ランジュ氏の犯罪

Le Crime de Monsieur Lange

詩人のジャック・プレヴェールが脚本に参加したこの作品は、労働者の解放をめざす左翼的内容だったが、結果として「演技的、技術的奇跡の密度が最も高く、純粋の真実と美が最も多く詰め込まれた映画」(トリュフォー)となった。



(96分・35mm・白黒)
35仏 ④J・プレヴェール, J・ルノワール ⑤J・パシュレ ⑥ジュール・ペリー, ルネ・ルフェーヴル

R-15 1/7 火6:30pm 1/11 土1:00pm
1/15 水・祝4:00pm

人生はわれらのもの

La vie est à nous

作家ルイ・アラゴンの依頼により、フランス共産党の製作で撮った3部構成のプロパガンダ映画。それぞれ工場労働者、農民、青年技師が生活に困っているのを同志が助けるという物語。2部は主にジャック・ベッケルが演出。



(66分・35mm・白黒)
36仏 ④(共監)アンドレ・ズボヴァグ, J・ベッケル, ジャン・ボレル, ル・シャノワ ⑥ジャン・ダステ, ジャック・B・プリユニス

R-16 11/14木3:00pm 11/20水3:00pm
11/22金6:30pm

フランスへの挨拶

A Salute to France

アメリカ人に、同盟国フランスについて教育することを目的として、米国戦争情報局が製作した作品。ヨーロッパに向かう輸送船の中でさまざまな国の兵士たちが自国について話すという内容。ほとんど上映されない幻の作品の一つ。



(34分・35mm・白黒)

*44米 ④フリップ・ダン, J・ルノワール, パーヴェス・メレティス ⑤陸軍映画班 ⑥B・メレティス, ガーソン・ケニン

ピクニック

Partie de Campagne

モーパッサンの小説を原作に、パリ郊外の川辺で一家が過ごす午後を描いた、詩情あふれる作品。特に主人公の娘を演じるシルヴィア・バタイユが印象に残る。ジョゼフ・コスマ作曲のメロディも美しい。



(40分・35mm・白黒)

*36/46米 ④J・ルノワール ⑤C・ルノワール ⑥S・バタイユ, ジャヌス・マルカン

R-17 1/8水3:00pm 1/11土4:00pm
1/17金3:00pm

どん底

Les Bas-Fonds

ゴリキーの戯曲をもとに、亡命ロシア人たちの依頼により製作。ルノワールはジャン・ギャバンとルイ・ジュールヴェという二大俳優を見事に使いこなした。戦前の日本で評価されていた唯一のルノワール作品。



(90分・35mm・白黒)

*36米 ④エウゲニー・ザチャーチン, ジャック・コンパネズ ⑤フェドーズ・ブルガンフ, J・バシユレ ⑥L・ジュールヴェ, J・ギャバン

R-18 11/30土1:00pm 12/12木3:00pm
12/14土4:00pm

大いなる幻影

La Grande Illusion

世界的に最も人気の高いルノワール作品。ジャン・ギャバン、シュトロハイムに加えて、ビエール・フレネー、マルセル・ドリオ、ガストン・モドラの名優たちがつづる兵隊たちの美しき物語。戦後日本で封切られ、一世を風靡。



(115分・35mm・白黒)

*37米 ④シャルル・スパーク, J・ルノワール ⑤クリスチャン・マトラ ⑥V・シュトロハイム, J・ギャバン

R-19 11/30土4:00pm 12/12木6:30pm
12/17水3:00pm

ラ・マルセイーズ

La Marseillaise

マルセイユからパリに向かう義勇軍を中心に、貴族から下っぼの兵士にいたるまで、あらゆる登場人物に親しみを込めた、ルノワール流フランス革命讃歌。製作は、一般大衆に前売り券を売って資金を集めるという型破りのものだった。



(135分・35mm・白黒)

*37米 ④J・ルノワール ⑤ジャン・セルジュ・フルゴワン, アラン・ドリアヌー ⑥P・ルノワール, リズ・ドラマル

R-20 11/14木6:30pm 11/27水6:30pm
11/28木3:00pm

獣人

La Bête Humaine

「女優ナナ」に続いて、ゾラの小説を原作とした作品で、宿命の病を背負った機関士(ジャン・ギャバン)の悲劇を描く。ギャバンとその愛人を演じるシモヌ・シモンの狂気の愛は、とどまることを知らない。



(103分・35mm・白黒)

*38米 ④J・ルノワール ⑤クルト・クラント ⑥J・ギャバン, S・シモン

R-21 11/15金3:00pm 11/28木6:30pm
11/29金3:00pm

ゲームの規則

La Règle du Jeu

錯綜した恋愛関係を軸に、ルノワール流演出の真骨頂にして映画百年の金字塔として知られる傑作。マルセル・ドリオ、ノラ・グレンゴール、ミラ・パレリらの絶妙な演技に加えて、ルノワール本人が演じるオクターヴ役も忘れがたい。



(112分・35mm・白黒)

*39米 ④J・ルノワール ⑤J・バシユレ ⑥M・ドリオ, N・グレンゴール

R-22 12/10水3:00pm 12/13金3:00pm
12/17水6:30pm

スワンプ・ウォーター

Swamp Water

ルノワールがアメリカに渡って、20世紀フォックスの求めに応じて作った第1作。ジョージア州の奥深い沼地を舞台に、ダナ・アンドリュース、アン・バクスター、ウォルター・ヒューストン、ウォルター・ブレナンらが演じる人間模様。



(86分・35mm・白黒)

*41米 ④ダドリー・ニコルズ ⑤ベヴェレ・マリー, ルシアン・バラード ⑥D・アンドリュース, W・ヒューストン

R-23 12/20金3:00pm 12/24水6:30pm
12/26木3:00pm

この土地は私のもの

This Land is Mine

アメリカ時代のルノワールが、ナチ占領下フランスのレジスタンス運動を、名優チャールズ・ロートンを主人公にハリウッドで撮った作品。戦後フランスで公開されて酷評されたが、奥行き深いシャープな映像は、凡俗の反ナチ映画と大きく異なる。



(108分・35mm・白黒)

*43米 ④D・ニコルズ, J・ルノワール ⑤フランク・レッドマン ⑥C・ロートン, ケント・ミス

R-24 12/10水6:30pm 12/13金6:30pm
12/18水3:00pm

南部の人

The Southerner

アメリカ南部の過酷な自然の中で、綿花を育てて生きていく一家(ザカリー・スコットとベティ・フィールドが夫婦を演じる)を、ドキュメンタリーのような生々しさで描いた、ルノワールのアメリカ時代の作品。ヴェネチア映画祭で最優秀作品賞を受賞。



(92分・35mm・白黒)

*45米 ④J・ルノワール, ヒューゴ・ボトラー ⑤リュシアン・アンドリオ ⑥Z・スコット, B・フィールド

R-25 12/19木3:00pm 12/21土4:00pm
12/25水3:00pm

小間使の日記

The Diary of a Chambermaid

ミルボーの同名小説を、ポーレット・ゴダードを主人公に、ハリウッドのスタジオで撮った作品。批評家バザンによれば、この作品をきっかけに、ルノワールはかつてのリアリズム志向から、純粹状態の演劇性へ向かうという。



(82分・35mm・白黒)

*46米 ④J・ルノワール, B・メレティス ⑤L・アンドリオ ⑥P・ゴダード, B・メレティス

R-26 12/20金6:30pm 12/24水3:00pm
12/26木6:30pm

浜辺の女

The Woman on the Beach

ロバート・ライオン、ジョーン・ベネット、チャールズ・ビックフォードの3人が織りなす恋慕のような三角関係。ルノワールが当時アメリカで流行していた異常心理や夢を描いた作品だが、これがハリウッド最後の映画となった。



(71分・35mm・白黒)

*46米 ④J・ルノワール, フランク・デヴィス ⑤D・ハリー・ウィルド, レオ・トウヴァー ⑥J・ベネット, R・ライオン

R-27 1/8水6:30pm 1/14水3:00pm
1/16木6:30pm

河

The River

ハリウッド脱出の第一作は、英国人作家ルーマー・ゴッデンの同名小説をもとに、インドでオール・ロケをしたテクニカラー作品となった。英国一家の生活を軸に、大自然との調和を描く、深い精神性に満ちた映画である。



(99分・35mm・カラー)

*50印=米 ④R・ゴッデン, J・ルノワール ⑤C・ルノワール ⑥ノラ・スウィンバーン, エズモンド・ナイト

R-28 11/15金6:30pm 11/27水3:00pm
11/29金6:30pm

黄金の馬車

Le Carrosse d'Or

アンナ・マニャーニを主人公に、イタリアで撮った作品。ヨーロッパからペルーに流れてきた芝居一座をめぐる、奇想天外かつ自由奔放な傑作恋愛譚。「どこまでが芝居でどこまでが人生?」とマニャーニは問いかける。



(100分・35mm・カラー)

*52印=伊 ④J・ルノワール, レンゾ・アヴェンツォ ⑥A・マニャーニ, ダンカン・ラモント

R-29 11/5水6:30pm 11/9土4:00pm
11/26水3:00pm

フレンチ・カンカン

French Cancan

ルノワールが15年ぶりにフランスで撮った作品。かつて組んだジャン・ギャバンを主人公を迎え、人気絶頂のフランソワーズ・アルヌールも加わって、ムラン・ルージュの誕生物語が華やかに展開する。ラストのカンカン踊りは映画史に燦然と輝く。



(97分・35mm・カラー)

*54印 ④J・ルノワール ⑤ミシェル・クレペール ⑥J・ギャバン, マリア・フェリクス

R-30 11/16土1:00pm 11/26水6:30pm

ジャン・ルノワールの家族アルバム

L'Album de la Famille de Jean Renoir

「恋多き女」のパリ公開の際に併映された短篇。ルノワールはインタビュに答えて、父について、少年時代について語る。

(26分・16mm・白黒・関連作品)

*56印 ④ロラン・グアリ ⑤ジャン・トルニエ ⑥J・ルノワール, P・デグロープ

恋多き女

Eléna et les Hommes

19世紀末のパリを舞台に、イングリッド・バーグマン演じる公爵未亡人エレナをめぐる男たち(ジャン・マレー、メル・ファーラー、ビエール・ベルタン)の恋の鞘当てゲーム。ラストでジブシーの歌を歌うのはジュリエット・グロコ。



(96分・35mm・カラー)

*56印 ④ジャン・セルジュ, J・ルノワール ⑤C・ルノワール ⑥I・バーグマン, J・マレー

R-31 1/21水6:30pm 1/23木3:00pm
1/25土4:00pm

コルドリエ博士の遺言

Le Testament du Docteur Cordelier

スティープンソンの小説「ジゼル博士とハイド氏」を原作とし、ジャン＝ルイ・バローを主人公に、何台ものカメラを使って、テレビ用に作られた作品。喜劇と悲劇、スタジオで撮った室内と街頭で撮った野外のシーンの対比など、奇妙な印象を残す。



(100分・35mm・白黒)

*59印 ④J・ルノワール ⑤ジョルジュ・ルクレール ⑥J＝L・バロー, テディ・ピリス

R-32 12/11水3:00pm 12/14土1:00pm
12/18水6:30pm

草の上の昼食

Le Déjeuner sur l'Herbe

人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリーヌ・ルーヴェル)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりでロケで撮った作品。



(92分・35mm・カラー)

*59印 ④J・ルノワール ⑤J・ルクレール ⑥P・ムーリス, C・ルーヴェル

R-33 1/9 木3:00pm 1/17 金6:30pm
2/1 土4:00pm

捕えられた伍長 *Le Caporal Epingle*

「大いなる幻影」と同じく、捕虜の脱走をテーマに、ジャン・ピエール・カッセル、クロード・ブラッスール、ジャック・ジュアノーらの若手俳優を起用した作品。明快で自由奔放なタッチは、むしろ当時のヌーヴェル・ヴァーグに近い。

(105分・35mm・白黒)
62分 監 J・ルノワール、ギイ・ルフラン 脚 J・ルクレール 脚 J・P・カッセル、C・ブラッスール



R-34 11/5 火3:00pm 11/16 土4:00pm

ジャン・ルノワールの小劇場
Le Petit Théâtre de Jean Renoir

この映画は題名が示すとおり、ルノワールが登場し、4つの芝居を劇場の傍らで紹介しながら、見せてゆく。これは監督が寓話を通じて今までの自分の映画を締めくくる遺言状である。フランソワーズ・アルヌール、ジャンヌ・モローらが出演。

(110分・35mm・カラー)
69分 監 J・ルノワール 脚 G・ルクレール 脚 ニノ・フォルミコーラ、マルグリット・カッサン



R-35 11/8 金6:30pm 11/12 火3:00pm
11/13 水6:30pm

可愛いリリー *La P'tite Lili*

妻カトリーヌとルノワールが娼婦とヒモ役で出演。彼らの息子アランも端役で出ている。モーパッサンの短篇が原作。

(10分・35mm・無声・白黒・関連作品)
27分 監 アルベルト・カヴァルカンティ 脚 ジミー・ロジャース 脚 C・ヘスリング、J・ルノワール

カトリーヌ *Catherine*

ルノワールが資金を出し、妻カトリーヌが主演した。デュードネが途中で降板したため、事実上のデビュー作と言われている。

(80分・35mm・無声・白黒・関連作品)
24分 監 アルベール・デュードネ 脚 J・ルノワール 脚 J・バシュレ、A・ジボリ 脚 C・ヘスリング、A・デュードネ

R-36 1/21 火3:00pm 1/23 木6:30pm
1/25 土1:00pm

現代の映画作家
ジャン・ルノワール 第1部
Jean Renoir, le Patron I

ヌーヴェル・ヴァーグの監督たちに「親父」と慕われたルノワールが、リヴェットの質問に答えて語る映画術。

(94分・35mm・白黒・関連作品)
66分 監 ジャック・リヴェット

R-37 11/20 水6:30pm 11/23 土1:00pm

「ピクニック」のリハーサル
Essai d'Acteurs pour "Une Partie de Campagne"

「ピクニック」の残されたラッシュのうち、俳優のリハーサルを集めた小品。ルノワール本人もカメラに向かって帽子をとって見せる。

(15分・35mm・無声・白黒・関連作品)
94分 監 クロディーヌ・コーフマン

「ピクニック」の撮影風景
Un Tournage à la Campagne

同じシネマテーク・フランセーズに残されていた、「ピクニック」の使われなかったラッシュによる、もうひとつの「ピクニック」。

(85分・35mm・白黒・関連作品)
94分 監 アラン・フレシエール

R-38 1/9 木6:30pm 1/14 火6:30pm
1/16 木3:00pm

ジャン・ルノワールの生涯
Jean Renoir

英国BBCがルノワール生誕百年を記念してテレビ用に製作したドキュメンタリー。ルノワールを知る人々が語るルノワール像。

(120分・16mm・カラー・関連作品)
94分 監 デイヴィッド・トンプソン

監 監督 共監 共同監督 脚 脚本・脚色 撮 撮影 編 編集 出 出演者

●本企画は、シネマテーク・フランセーズを始めとする各国フィルム・アーカイヴ及び各映画会社の協力を得ています。



- 外国より借用する作品も含まれるため、記載された作品が上映できない可能性もありますのであらかじめご了承ください。
- 記載した上映分数は、当日のものと異なる場合があります。
- “R”のついた番組番号は便宜上のものです。
- 本特集では、このNFCカレンダーとは別のスケジュール・チラシも用意していますが、内容は全く同じものです。



料金

当日券(回券のみ)＝一般1,800円 大・高生1,500円
中・小生1,200円

前売1回券＝一般1,600円 大・高生1,300円
中・小生1,000円

前売5回券＝一般7,000円 大・高生5,000円
中・小生4,000円

前売10回券＝一般12,000円 大・高生9,000円
中・小生7,000円

- 前売券は都内プレイガイド、大学生協、チケットぴあ(03-5237-9999)、チケットセゾン(03-3250-9999)にて10月1日より発売開始。
- お問い合わせ：朝日新聞社東京企画部(03-5540-7450)、国際交流基金視聴覚課(03-5562-3535)
- 番組案内：NTTハローダイヤル(03-3272-8600)

写真で見る「ジャン・ルノワール、映画のすべて。」
— UCLAジャン・ルノワール・コレクションより —
Le Grand Théâtre de Jean Renoir
A Photo Exhibition from UCLA Arts Library Special Collections Jean Renoir Papers
会期：12月10日(火)～12月26日(木)、1月7日(火)～2月1日(土)/会場：展示室(7階)

この写真展は、シンポジウムとともに特集「ジャン・ルノワール、映画のすべて。」を飾るもう一つのイベントです。上映企画のためにUCLA大学図書館から複製購入した、ジャン・ルノワールの公私にわたる貴重な写真約150点を、「作品世界」「撮影風景」「巨匠やスターと共に」「家族、友人、自身」といった4つのカテゴリーに分けて展示致します。ジャン・ルノワールの人生から切り取られたさまざまな断片や表情は、この偉大な映画作家の「人と芸術」に触れる、映画とはまた違った興味深い体験をもたらしてくれるでしょう。

- 後援：国際交流基金、朝日新聞社、映画生誕百年祭実行委員会
- 入場無料

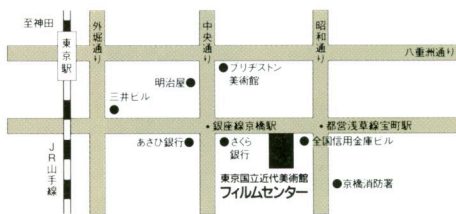
「UCLAジャン・ルノワール・コレクション」について

1990年の秋、ジャン・ルノワールの未亡人デイドが世を去った。ジャンとカトリーヌ・ヘスリングの子息アラン・ルノワール氏は、父とデイドの住んでいたビバリーヒルズの自宅を売却することにしたが、その際、ジャン・ルノワールの膨大な量の個人資料や重要記事などをカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)の大学図書館に寄贈した。それらは「UCLAアーツ・ライブラリー・スペシャル・コレクションズ・ジャン・ルノワール・ペーパーズ」と名づけられ、1991年の5月から1993年の8月にかけてロレイン・ロビアンコによって詳細なカタログが行なわれ、今日では世界中のルノワール研究者にとってかけがえのない資料となっている。

一階受付では、「NFCニューズレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルム・アーカイヴやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

fiaf
100 cinema

東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びついている国際団体です。



フィルムセンター 〒104東京都中央区京橋3-7-6

営団地下鉄有楽線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
営団地下鉄有楽線銀座一丁目駅下車、出口9より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ：NTTハローダイヤル 03-3272-8600

「ジャン・ルノワール芸術の魅力と秘密」

Le Grand Théâtre de Jean Renoir: International Film Symposium (Tokyo, 1996)

“IN SEARCH OF THE SECRET OF JEAN RENOIR AND HIS ART”

期日：12月7日(土)10:30am～5:30pm/会場：大ホール(2階)

特集「ジャン・ルノワール、映画のすべて。」を機に、日・仏・米からルノワールにゆかりのある方や著名な映画研究家・評論家が出席して、「ジャン・ルノワール芸術の魅力と秘密」をテーマに、この偉大な映画作家の〈人と芸術〉を語り合うというイベント、「国際映画シンポジウム(東京・1996年)」が開催されます。各パネリストは講演名とともに右のようなコメントを寄せています(なお、シンポジウムの進行表等は当日参加者に配布します)。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

- 後援：国際交流基金、朝日新聞社、映画生誕百年祭実行委員会
- 使用言語：日本語及びフランス語(同時通訳付)
- 開場：10:00am
- 入場無料(先着順、定員300名になり次第締切)

ジャン・ドゥーシェ

(映画評論家)
“ジャン・ルノワール作品における窓”
Jean Douchet
“La fenêtre chez Jean Renoir”



《ジャン・ルノワール作品の特徴は、その寛大さです。世界と人間に向かって開かれているのです。そして、彼のスタイルを支えている根本の映像は窓です。窓はスクリーンの枠内にきっちり収められ、絵画のように空間を切り取っています。窓は内部から外部へと、または外部から内部へと絶え間ない運動を作り上げます。それは人生と夢を移行する関係性でもありません。また、“自由”という言葉は“人生”とともにこの映画作家にとってのキー・ワードです。彼の“自由”は、フランス共和国の標語(自由・平等・博愛)に使われた“自由”と見事に調和するよう考えられたものです。しかしルノワールは、フランス革命に由来するブルジョワ社会の根幹をなすこの3つの原則が、完全に隠されてはいるが現実には偏在している“所有こそ、この上なく貴重な権利である”という4つ目の原則と対立することを忘れてはけません。》

ギ・カヴァニャック

(監督の元助手)
“運命の演出”
Guy Cavagnac
“Jean Renoir: une mise en scène du destin”



《ルノワールが演出すると、出演者たちの運命はどのように結ばれていくのでしょうか？ 実際、ルノワールは登場人物の未来を予感させるような演出をしばしばおこないます。「十字路の夜」、「トニ」、「ピクニック」、「フレンチ・カンカン」、「草の上の昼食」といった作品とともに、この事を提示できればと考えています。》

アラン・ルノワール

(監督の子息)
“ストーリー・テラーとしてのジャン・ルノワール：息子による回想”
Alain Renoir
“Jean Renoir as a story teller: A son's recollections”



《私が記憶している限りでは、父は物語を語りたいたいという欲望を常に強く感じていました。そして父が望んだ話というのは、この世には正義というものがある、人はそれなりの理由があって行動するのだという自らの確信を反映するものでなければなりません。》

ジャンネット・バーグストロム

(カリフォルニア大学ロサンゼルス校映画テレビ学部批評学科学士)
“アメリカのルノワール：「浜辺の女」”
Janet Bergstrom
“Renoir in America: The Woman on the Beach”



《ルノワールのアメリカ時代の最後の作品で、かつ、もっとも出来の良い作品である「浜辺の女」が製作されるまでのさまざまな事情を振り返ってみると、彼の第二次世界大戦前フランスにおける映画作りとアメリカ流スタジオ・システムの下での映画作りとの違いについて全く新しい視点が私たちの前に現れてきます。今回のシンポジウムは、「浜辺の女」に関するRKO社のファイルとルノワールの個人的な書類から得た多岐にわたる文献資料について議論する初めての機会となるでしょう。ルノワールのオリジナル・ヴァージョンがどんなものであったかを再構築しながら、それを今回東京でも上映される劇場公開版——それはたった1回の試写で否定的な反応が出たためにほぼ3分の1が撮り直されたヴァージョンですが——と比較してみることができると思います。》

蓮實重彦

(東京大学副学長)
“〈枯れ木〉と〈角笛〉：ジャン・ルノワールにおける〈生〉と〈死〉”
Shigehiko Hasumi

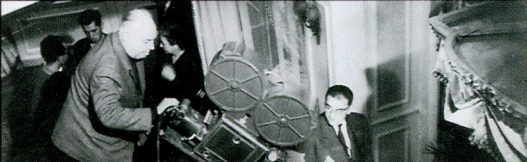


《もっぱら〈生〉を謳歌する作家といわれがちなジャン・ルノワールの作品には、ときとして、〈死〉のイメージが色濃く漂う瞬間があります。「女優ナナ」や「ボヴァリー夫人」のように、19世紀フランスの非情な男性社会の中で死へと追いつめられてゆくヒロインをじっとみつめる作者が、強く〈死〉を意識していることはいうまでもありません。しかし、ここでは、死に行く女たちをルノワールがどう描いたかというより、「マッチ売りの少女」をはじめとする初期のサイレント作品から、「南部の人」などのハリウッド時代のトーキー作品にあらわれている典型的なルノワールの〈枯れ木〉のイメージを通して、それを分析してみたいと思います。〈枯れ木〉の対極に位置するイメージがどんなものであり、それがどのように〈生〉を描いているかについても、当然、触れてみることになるでしょう。》



ジャン・ルノワール、映画のすべて。

Le Grand Théâtre de Jean Renoir

日	火	水	木	金	土	
11月	3 4	R-34 3:00pm ジャン・ルノワールの小劇場	R-2 3:00pm 女優ナナ	R-1 3:00pm 水の娘	R-6 3:00pm 荒地	R-5 1:00pm 騎馬試合
		R-29 6:30pm フレンチ・カンカン	R-4 6:30pm のらくら兵	R-3 6:30pm チャールストン、マッチ売りの少女、ジャン・ルノワールの演技指導	R-35 6:30pm 可愛いリリー、カトリーヌ	R-29 4:00pm フレンチ・カンカン
	10 11	R-35 3:00pm 可愛いリリー、カトリーヌ	R-5 3:00pm 騎馬試合	R-16 3:00pm フランスへの挨拶、ピクニック	R-21 3:00pm ゲームの規則	R-30 1:00pm ジャン・ルノワールの家族アルバム、恋多き女
		R-6 6:30pm 荒地	R-35 6:30pm 可愛いリリー、カトリーヌ	R-20 6:30pm 獣人	R-28 6:30pm 黄金の馬車	R-34 4:00pm ジャン・ルノワールの小劇場
	17 18	R-14 3:00pm ランジュ氏の犯罪	R-16 3:00pm フランスへの挨拶、ピクニック	R-9 3:00pm 十字路の夜	R-12 3:00pm ボヴァリー夫人	R-37 1:00pm 「ピクニック」のリハーサル、「ピクニック」の撮影風景
		R-12 6:30pm ボヴァリー夫人	R-37 6:30pm 「ピクニック」のリハーサル、「ピクニック」の撮影風景	R-14 6:30pm ランジュ氏の犯罪	R-16 6:30pm フランスへの挨拶、ピクニック	R-9 4:00pm 十字路の夜
	24 25	R-29 3:00pm フレンチ・カンカン	R-28 3:00pm 黄金の馬車	R-20 3:00pm 獣人	R-21 3:00pm ゲームの規則	R-18 1:00pm 大いなる幻影
		R-30 6:30pm ジャン・ルノワールの家族アルバム、恋多き女	R-20 6:30pm 獣人	R-21 6:30pm ゲームの規則	R-28 6:30pm 黄金の馬車	R-19 4:00pm ラ・マルセイエーズ
12月	1 2	3 休映	4 休映	5 休映	6 休映	10:30am-5:30pm 国際映画シンポジウム(東京・1996年)「ジャン・ルノワール芸術の魅力と秘密」(写真参照)
	8 9	R-22 3:00pm スワンプ・ウォーター	R-32 3:00pm 草の上の昼食	R-18 3:00pm 大いなる幻影	R-22 3:00pm スワンプ・ウォーター	R-32 1:00pm 草の上の昼食
		R-24 6:30pm 南部の人	R-8 6:30pm 牝犬	R-19 6:30pm ラ・マルセイエーズ	R-24 6:30pm 南部の人	R-18 4:00pm 大いなる幻影
	15 16	R-19 3:00pm ラ・マルセイエーズ	R-24 3:00pm 南部の人	R-25 3:00pm 小間使の日記	R-23 3:00pm この土地は私のもの	R-13 1:00pm トニ
		R-22 6:30pm スワンプ・ウォーター	R-32 6:30pm 草の上の昼食	R-13 6:30pm トニ	R-26 6:30pm 浜辺の女	R-25 4:00pm 小間使の日記
	22 23	R-26 3:00pm 浜辺の女	R-25 3:00pm 小間使の日記	R-23 3:00pm この土地は私のもの		
		R-23 6:30pm この土地は私のもの	R-13 6:30pm トニ	R-26 6:30pm 浜辺の女		
	5 6	R-10 3:00pm 素晴しき放浪者	R-17 3:00pm どん底	R-33 3:00pm 捕えられた伍長	R-8 3:00pm 牝犬	R-15 1:00pm 人生はわれらのもの
1月		R-15 6:30pm 人生はわれらのもの	R-27 6:30pm 河	R-38 6:30pm ジャン・ルノワールの生涯	R-10 6:30pm 素晴しき放浪者	R-17 4:00pm どん底
	12 13	R-27 3:00pm 河	R-10 1:00pm 素晴しき放浪者	R-38 3:00pm ジャン・ルノワールの生涯	R-17 3:00pm どん底	R-7 1:00pm 坊やに下剤を
		R-38 6:30pm ジャン・ルノワールの生涯	R-15 4:00pm 人生はわれらのもの	R-27 6:30pm 河	R-33 6:30pm 捕えられた伍長	R-11 4:00pm ショタール商会
	19 20	R-36 3:00pm 現代の映画作家 ジャン・ルノワール 第1部	R-11 3:00pm ショタール商会	R-31 3:00pm コルドリエ博士の遺言	R-7 3:00pm 坊やに下剤を	R-36 1:00pm 現代の映画作家 ジャン・ルノワール 第1部
		R-31 6:30pm コルドリエ博士の遺言	R-7 6:30pm 坊やに下剤を	R-36 6:30pm 現代の映画作家 ジャン・ルノワール 第1部	R-11 6:30pm ショタール商会	R-31 4:00pm コルドリエ博士の遺言
	26 27	R-1 3:00pm 水の娘	R-2 3:00pm 女優ナナ	R-3 3:00pm チャールストン、マッチ売りの少女、ジャン・ルノワールの演技指導	R-4 3:00pm のらくら兵	R-8 1:00pm 牝犬
		R-3 6:30pm チャールストン、マッチ売りの少女、ジャン・ルノワールの演技指導	R-4 6:30pm のらくら兵	R-1 6:30pm 水の娘	R-2 6:30pm 女優ナナ	R-33 4:00pm 捕えられた伍長